

学校経営目標

1 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 金沢大学附属学校園の特別支援学校として大学と連携した先駆的研究に取り組み、毎年教育研究会を開催して研究成果を発信している。
また、教員養成のための教育実習等に取り組み、毎年100名程度の学生を受け入れている。
- ② 児童生徒の定員は60名であるが、今年度は小学部19名、中学部18名、高等部24名、合計61名の児童生徒が在籍している。
児童生徒の約8割が自閉症もしくは自閉症の疑いがあり、平成18年度より障害特性に対応したカリキュラムの改善や物理的環境の改善に取り組んでいる。近年知的発達の遅れが軽度の自閉症の児童生徒が増加しており、他者との関わりやコミュニケーション能力、社会性を育てる教育実践を重要視している。また、小規模校という特色を生かし、個別の教育的ニーズを的確に把握するための体制作りや教育実践についての研究にも取り組んでいる。
高等部卒業後の進路状況は過去5年間で、生徒・保護者が希望する進路先に移行した生徒が44名の内42名で就労希望達成率は95.5%である。また、一般就労率は34.1%である。
- ③ 毎年11月に入学選考を実施しているが、近年中学部、高等部への入学希望者が増加しており、昨年度は学外からの入学定員枠9名に対して19名の応募があった。
- ④ 近隣に社会福祉法人や中学校があり、伝統的に福祉や教育に関心が高い地域に立地している。2年前より地域交流の推進に取り組み少しずつであるが、地域との関わりができつつある。
- ⑤ 地域における特別支援教育のセンター的役割はもとより、他の附属学校園のセンターとしての役割も果たしていく必要がある。しかし、附属学校園へのセンターとしての活動は進んでいない。また、校内保護者からの相談対応も増加、複雑化しており、本校の特別支援教育のセンターとしての役割について検討が必要である。
- ⑥ 行事や自主学習会等、育友会活動が活発に行われている。特に課外活動（スマイルクラブ）は、今年度は12のクラブに、延べ130名余り（重複して入部）の児童生徒・保護者、卒業生、卒業生保護者が参加している。

(2) 児童生徒に関する中・長期的目標

- ① 要求や希望を素直に表現する児童生徒の育成
- ② 自分らしさを大切にしつつ、積極的に人や物事、社会と関わる児童生徒の育成
- ③ 自分で決める、自分で選ぶことのできる児童生徒の育成
- ④ 将来の希望する生活を実現するために、主体的に課題に取り組む児童生徒の育成

(3) 教職員、学校組織の望ましい在り方

- ① 附属学校の使命を自覚し、大学や他の附属学校園との連携のもと、積極的に研究や教員養成に取り組む教師
- ② 授業力や特別支援教育の専門性の向上を目指すと共に、自分の特技や個性を生かして教育活動に取り組む教師

- ③ 児童生徒や保護者の思いに寄り添い、共に学ぶ姿勢で教育活動に取り組む教師
- ④ 地域交流、地域連携を推進するために、学校全体で計画的・組織的に取り組む体制づくりが必要

2 今年度の重点目標（短期目標）

- (1) 現在と将来の希望する生活を実現するために、主体的に自らの課題に取り組む児童生徒の育成
〈新規〉
- (2) 地域交流・地域との連携の推進
〈継続〉

3 金沢大学第2期中期目標・中期計画（附属学校に関する目標・計画）に関して

現在、第2期中期目標・中期計画を策定中であるが、引き続き大学・学類との連携や他の附属学校園との連携に取り組む。策定後は本校の経営計画に反映する。